2018年5月20日

「はじめてのキリスト教」説教要約

聖霊が降られ

（使徒の働き2・1～4）

一、きょうの聖書箇所より

1節に**〈五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。〉**と書かれています。**〈五旬節〉**とは五十日目の意味で、ユダヤ人の祭りが行われていました。こうしてエルサレムには、当時ローマが治めていた地域に散らばっていたユダヤ人が大勢集まって来ていました。ここに書かれている記述はイエス・キリストが十字架にかかられて復活なさった紀元30年の五旬節（＝きょう）ことです。弟子たちは**〈一つ所に集まって〉**いました。何をしていたのでしょうか。お祈りをしていました。すると、2節です。**〈すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。〉**とあります。何が起きたのでしょうか。この記述は五旬節の日の出来事を体験した弟子たちの証言から、こういう文章になったのでありましょう。それは、弟子たちの全員が味わった不思議な出来事でした。それだけではありません。3節に書かれています。**〈また、炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。〉**とあります。では、**〈炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった〉**時、どうなったでしょうか。4節です。**〈すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しだした。〉**とあります。すなわち、聖霊に満たされ、他国のことばで話しだしたのです。ですが、たいせつなのは、現象がどうであったと言うことよりも、この日に「教会」が誕生したことです。

二、聖霊って何だろう?

ところで、聖霊って何なのでしょうか。ずばり、神です。イエス・キリストも神です。父なる神も神です。そうすると、キリスト教会は「三にん」の神を信じているのでしょうか。そうではありません。父・子・聖霊にして、おひとりなる神を信じています。むずかしいでしょうか。むずかしいと言うよりも、理解できないのですね。それでかまいません。神は、私共が理解するお方ではなく、信じるお方だからです。父・子・聖霊なる神、すなわち三つの位格を持つおひとりなる神が、世界を造られました。ちなみに、位格は「ペルソナ」という言葉で、役者が被ったお面の意味です。こういうわけで、父・子・聖霊なる三位一体の神が、時間も空間も、物質も命も、造られました。

三、罪人（つみびと）を救う神

その、父・子・聖霊なる神は、二千年前に子なる神を遣わしてくださいました。そのお方がイエス・キリストです。何のためにイエス・キリストが遣わされたのでしょうか。私たちの罪を赦すためです。世界を造られた神は聖いお方です。そのような神の目から見るなら、私たちは全員罪人です。すべての人は神の御意思に適っていません。神は聖い御方なので、やがて一人ひとりの罪を裁かれます。ですが一方で、神は私たち一人ひとりを愛しておられます。なぜ、でしょうか。一人ひとりは神によって形づくられ、命の息を吹き込まれることにより、「あなた」「わたし」という人間が生まれたからです。では、聖なる神が罪を裁かれることと、人間を愛することとは矛盾しないでしょうか。神がどんな罪をも裁かれるなら、神が愛であるとは言えません。反対に、神が、どんなに恐ろしい罪を犯した人であっても「かまへん、かまへん」とおっしゃるなら、そういう神は、聖い御方ではありません、絶対者ではありません、神ではありません。神は聖なる御方であって人の罪を見逃さず、裁かれる御方ですが、私たちを愛し、無条件で罪人である私たちを受け入れてくださる御方です。どうやって、それが現されたのでしょうか。御子イエス・キリストを遣わされたことによってです。すなわち人として生まれられ、罪のないイエス・キリストが私たちの罪を代わりに受けたことによってです。こういうわけで、御子イエス・キリストが十字架にかかって死なれたのは、神の御心に適ったことでした。なぜなら、イエス・キリストの十字架の死は、私たちの罪の身代わりの死だったからです。ですが、神はイエス・キリストを死者の中から復活させられました。私たちの罪を背負って、罪人として死なれたイエスを、神は復活させられました。復活させられた主イエス・キリストは父なる神の許に帰られ、聖霊が遣わされました。

四、聖霊の働き

聖霊は父・子・聖霊なる神の第三位格、すなわち三番目のペルソナです。働きが異なります。聖なる霊として、私たちの一番奥深い部分に触れてくださいます。聖霊が触れてくださると、人は罪について、命について、人生について、素直に考えるようになります。聖霊に触れられる時、「神は私たち一人ひとりを愛し、御子イエス・キリストを遣わしてくださった」と知り、「今のままの姿では神の御心に適わない」と知り、イエス・キリストの救いが分かるようになります。弟子たちは、聖霊が降られた紀元30年の五旬節の日にイエス・キリストが救い主であることをはっきりと知りました。イエス・キリストを、神が遣わされた救い主と信じることが神の業であり、聖霊の働きです。